



# 学校だより

10月号  
横浜市立桜台小学校  
令和6年9月30日発行



HPはこちらから

一人ひとりの学びを大切に

高学年チーム・マネジャー 大木 洋平

毎日のように暑い日が続いておりましたがようやく秋らしい陽気が少しずつみられるようになりました。日頃より本校の教育活動にご協力いただきありがとうございます。

10月11日で前期が終わり、15日より後期が始まります。前期の半年はいかがでしたでしょうか。11日にあゆみが子ども達に渡されます。ぜひご家庭でも振り返りと今後の目標などを話題にしてもらえると嬉しいです。

今年度、私は校内で3年生の算数少人数と、6年生の理科、校内の特別支援教育を担当しています。普通の授業では、一人ひとりが「主体的に学ぶ」ことを目指して、まずはじっくり一人で考えてみます。その後、グループや全体での話し合い活動では、互いの知恵を出し合い、助け合ったり、時には考えが違う場合も、違いを認め合ったりします。教師が一方向的に説明するより、子ども同士が自分たちの言葉を使って話し合う方が、理解が深いからです。発言や記述量の多い子だけではなく、学びの基本である他の子の良さを真似てみたり、参考にしたりして修正したことを成長として大いに認め、力を合わせる・人の力を借りることに前向きな子どもたちを育てていきたいと考えます。子どもたちにとって、自分だけ「わからない。」「書けない。」ではなくて、「間違えてもいいんだ。」「友達に教えてもらったからわかった。」と自己肯定感を育てていきたいです。

先日、授業の終わりに「今日の学習は、よくわかったから楽しかった。」と話してくれた子がいました。その子が苦手な教科の授業でしたが、「楽しかった」と感じてくれたことが嬉しく感じました。その子の「楽しかった」という思いが学びの意欲につながり、次への成長へとつながっていくのではないのでしょうか。一人ひとりの児童にあった学びの在り方というのが大切であり、私たち教員も一人ひとりに合わせた支援の仕方や学習の仕方などを考えていかなければならないと考えています。「多様性」という言葉を、耳にすることが多くなってきましたが、学校教育の場でも「学び方の多様性」や、「多様な子どもたちの資質・能力を育成するための個別最適な学び」ということが、言われるようになってきました。誰一人取り残さないよう、児童を主役とし、一人ひとりの可能性を引き出していけるよう取り組んでいきたいと考えています。

子どもたちの気持ちに立って、学校は楽しいところ、また明日も来たい場所として、あり続けられるよう目指しています。